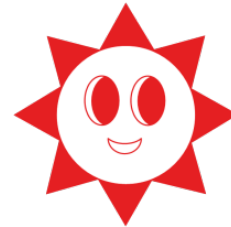


ケンコーマヨネーズ株式会社【証券コード：2915】

2025年3月期 決算説明会



2025年5月22日

1. 2025年3月期 決算概要
2. 2026年3月期 業績予想
3. 中長期経営計画
『KENKO Vision 2035』の進捗
4. 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応について
5. 質疑応答

1. 2025年3月期 決算概要

代表取締役社長 島本 国一

2025年3月期 決算ハイライト（連結）



売上高 +3.4%増
営業利益 +64.3%増

タマゴ加工品の数量回復による
生産効率の改善

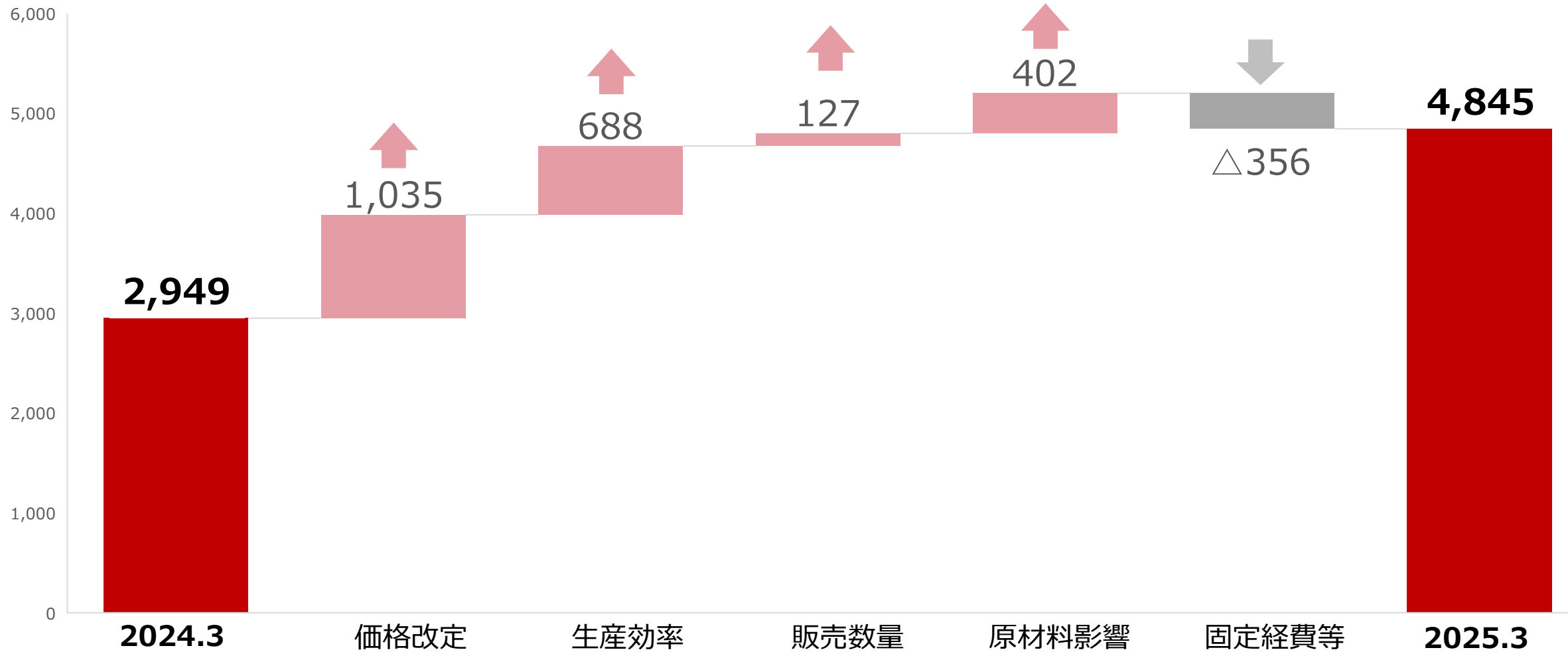
増収増益

過去最高を更新

	2024年3月期	2025年3月期	
	実績	実績	前年同期比
売上高	88,724	91,703	+3.4%
売上総利益 (売上総利益率)	18,017 20.3%	20,537 22.4%	+14.0%
販売費及び一般管理費 (販管費率)	15,068 17.0%	15,691 17.1%	+4.1%
営業利益 (営業利益率)	2,949 3.3%	4,845 5.3%	+64.3%
経常利益 (経常利益率)	3,099 3.5%	4,999 5.5%	+61.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,735 3.1%	3,503 3.8%	+28.1%
1株当たり当期純利益	169円90銭	221円62銭	

連結營業利益 増減要因 <前年同期比>

(単位：百万円)



前年同期比 + 1,896百万円

セグメント別実績

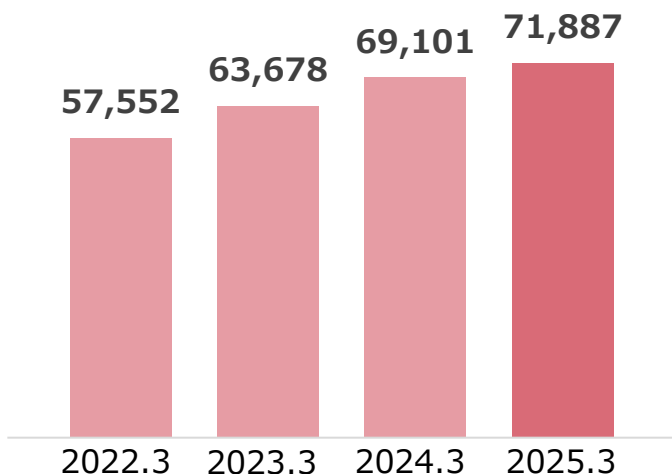


(単位：百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比
売上高	88,724	91,703	+3.4%
■ 調味料・加工食品事業 ※ケンコーマヨネーズ本体の事業	69,101	71,887	+4.0%
■ サラダ・総菜類	21,591	20,948	△3.0%
■ マヨネーズ・ドレッシング類	26,996	27,355	+1.3%
■ タマゴ加工品	18,748	21,795	+16.3%
■ その他	1,765	1,788	+1.3%
■ 総菜関連事業等 ※連結子会社の事業	18,714	18,954	+1.3%
■ その他 ※サラダカフェ	908	861	△5.1%
セグメント利益	2,949	4,845	+64.3%
■ 調味料・加工食品事業	2,006	3,894	+94.1%
■ 総菜関連事業等	908	862	△5.1%
■ その他	△6	3	—
調整額	40	84	112.4%

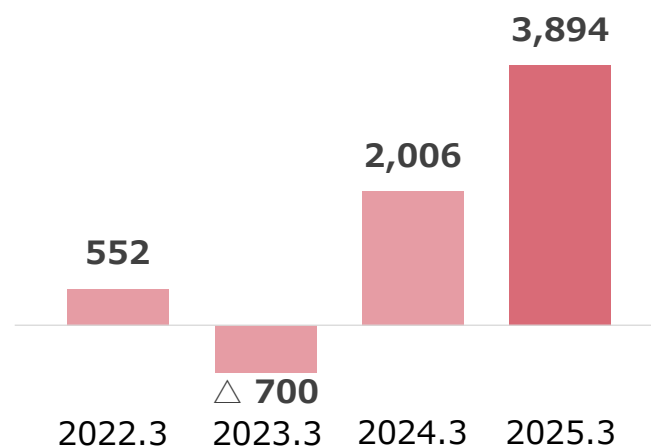
セグメント別実績 ■ 調味料・加工食品事業



■ 売上高 (単位：百万円)



■ セグメント利益 (単位：百万円)



売上高 増収
(前年同期比+4.0%)

- ・たまごサラダ、ゆでたまごが好調
- ・量販店向けや外食向けのマヨネーズ類の伸長
- ・ポテトサラダ等は販売数量減少

セグメント利益 増益
(前年同期比+94.1%)

- ・タマゴ加工品の数量回復による生産効率の改善
- ・前期2Qに実施したロングライフサラダ類、和惣菜の価格改定の浸透

▼2月1日発売 2025年春夏向け新商品



社会課題の解決に寄与する商品の開発

環境問題

食品ロス削減

人手不足

時間短縮

◀『WABI-DELI™』
冷凍の和惣菜
→海外輸出を視野に商品ラインナップ拡大中

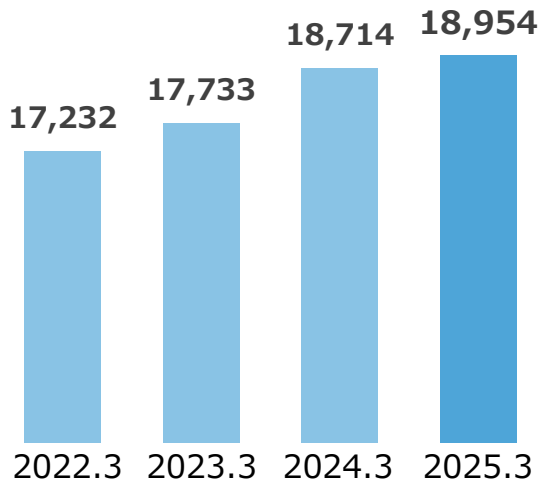
セグメント別実績

■ 総菜関連事業等

■ その他



■ 売上高 (単位: 百万円)



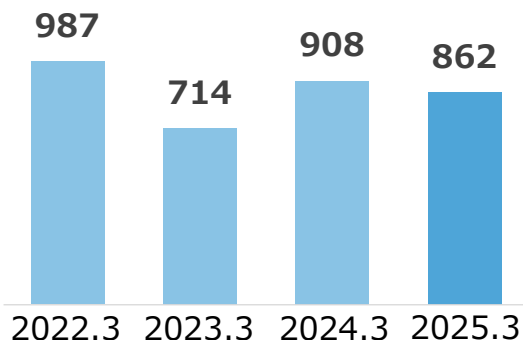
売上高 増収
(前年同期比+1.3%)

- ・販売領域の拡大
- ・マーケットイン発想の商品化
- ・地域連携コラボ、食材で差別化

セグメント利益 減益
(前年同期比△5.1%)

- ・鶏卵・野菜の価格高騰

■ セグメント利益 (単位: 百万円)



▼ おつまみにもなる定番ヒット商品



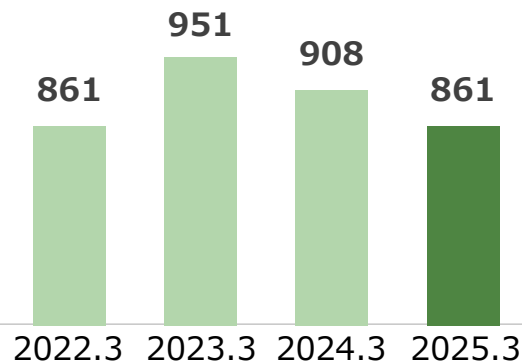
万人受けする定番の
自家製甘辛のたれの
つくね



お酒にも良く合う
担々麺のような
ポテトサラダ

グループ内で成功事例の横展開

■ 売上高 (単位: 百万円)



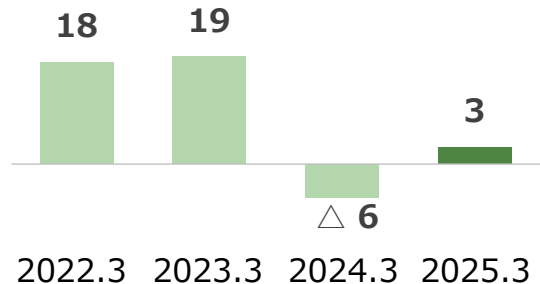
売上高 減収
(前年同期比△5.1%)

- ・1店舗の退店
- ・商品力の強化

セグメント利益 増益
(前年同期比-)

- ・経費対策、店舗対策による
仕組みの見直し
- ・高付加価値商品の開発
- ・12月クリスマス商戦の成功

■ セグメント利益 (単位: 百万円)



▼ サラダ料理の進化

カラダの中から
美と健康をサポートする「美サラダ®」



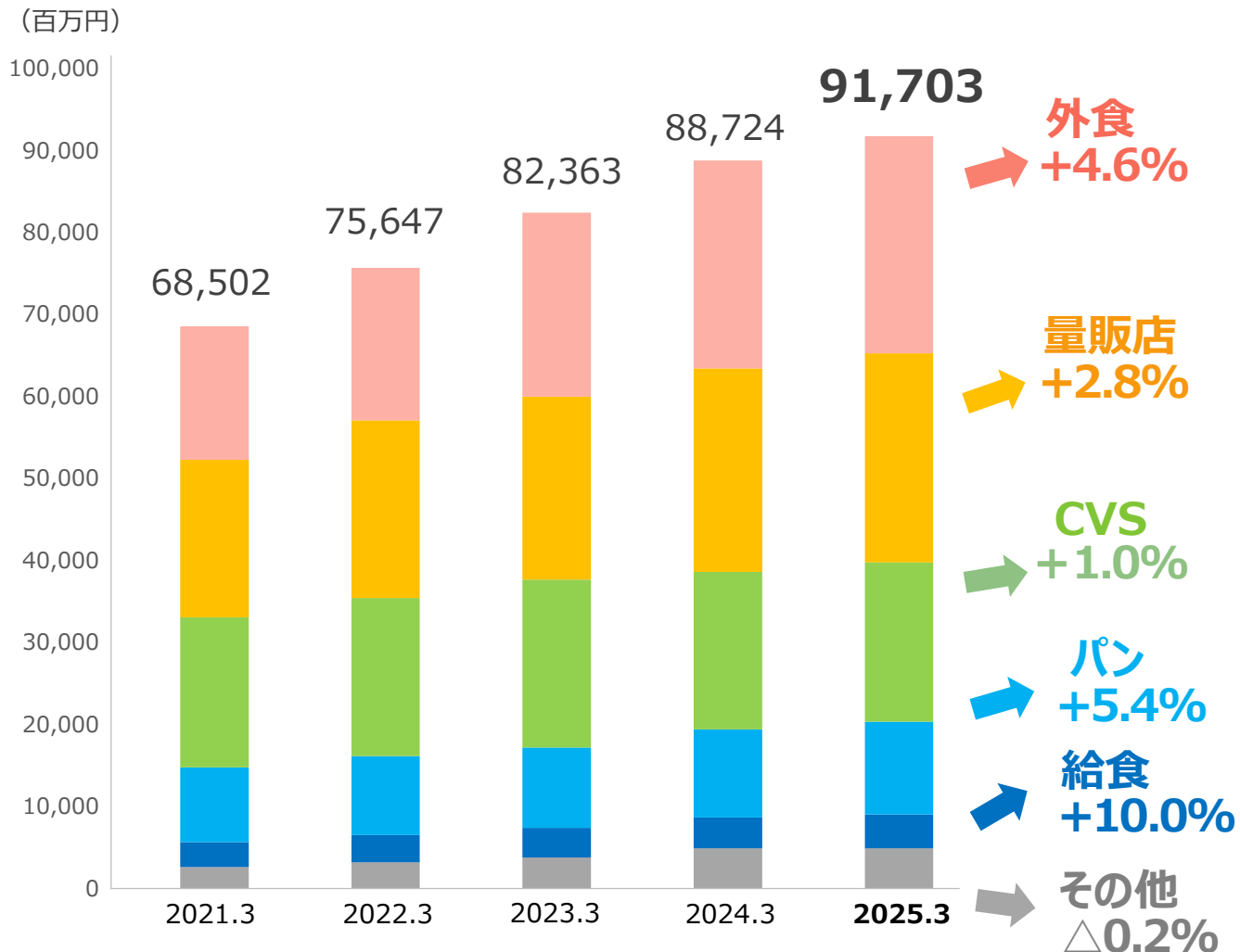
※サラダ料理は、ケンコーマヨネーズの登録商標です。

※百万円未満切り捨て

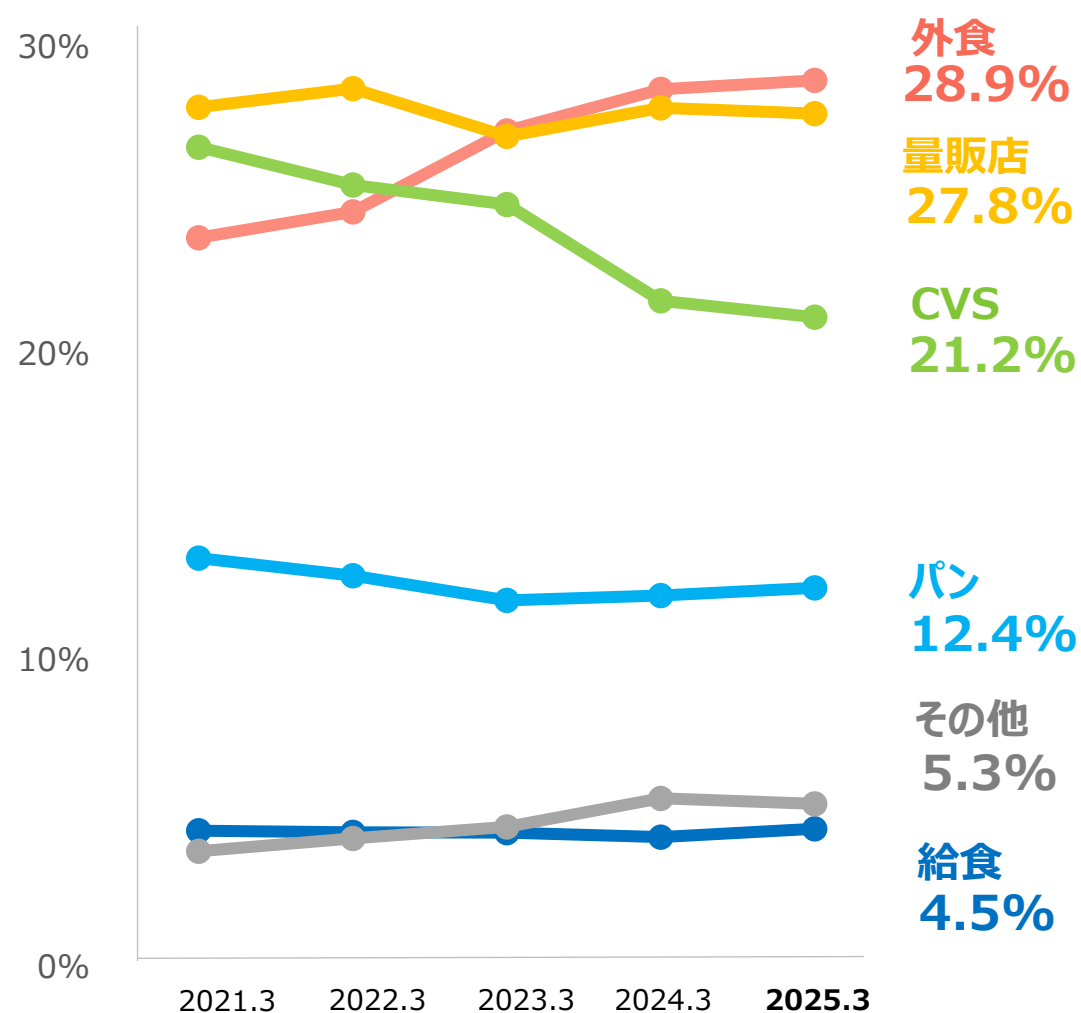
販路別売上高（連結）



販路別売上高



販路別売上高 構成比



貸借対照表（連結）



		2024年3月期	2025年3月期	前年同期比
※1：長期未払金を含む（単位：百万円）				
資産	流動資産	36,575	34,312	△6.2%
	固定資産	30,795	29,767	△3.3%
資産合計		67,370	64,080	△4.9%
負債	うち有利子負債残高※1	6,881	5,482	△20.3%
		28,391	24,116	△15.1%
純資産		38,978	39,963	+2.5%
負債・純資産合計		67,370	64,080	△4.9%
1株当たり純資産		2,439円95銭	2,678円13銭	-
自己資本比率		57.9%	62.4%	+4.5%

ポイント

▼資産

- ・売掛金の減少※2 1,947百万円
- ・機械装置及び運搬具（純額）の減少 1,017百万円

▼負債

- ・買掛金の減少※2 2,632百万円
- ・未払金の減少※2 921百万円
- ・長期借入金の減少 522百万円

▼有利子負債の減少

※2：2024年3月期末日が休日による影響

自己資本比率 62.4%
安定した財務基盤の継続

キャッシュ・フロー計算書 及び 設備投資額・減価償却費 (連結)



キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2024年 3月期	2025年 3月期	増 減
営業キャッシュ・フロー	5,957	4,594	△1,363
投資キャッシュ・フロー	△239	△1,062	△822
フリーキャッシュ・フロー	5,718	3,532	△2,186
財務キャッシュ・フロー	△2,277	△3,531	△1,253
現金及び現金同等物の 期末残高	15,729	15,729	0

設備投資額・減価償却費

(単位：百万円)	2024年 3月期	2025年 3月期	増 減
設備投資額合計	967	945	△21
調味料・加工食品事業	738	681	△56
総菜関連事業等	228	263	34
その他	-	-	-
減価償却費合計	2,699	2,402	△296
調味料・加工食品事業	1,941	1,696	△245
総菜関連事業等	754	704	△49
その他	2	1	△0

営業CF

税金等調整前当期純利益と減価償却費の増加
売上債権の減少

投資CF

有形・無形固定資産の取得による支出
投資有価証券の売却による収入

財務CF

自己株式の取得による支出の増加

2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期 業績予想 (連結)



売上高 +4.1%、営業利益△0.9%

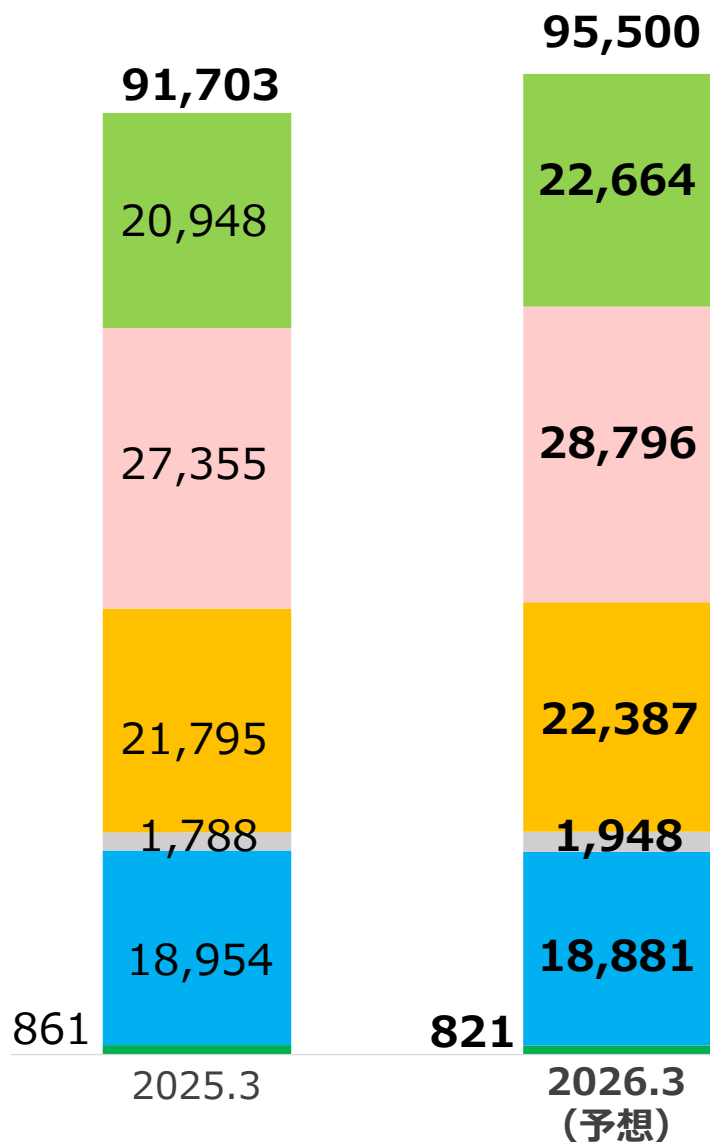
▶ 原材料費・固定経費等の増加を見込んでいるが、前期並みの利益水準を計画

(単位：百万円)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (予想)	
	金額	金額	前年同期比
売上高	91,703	95,500	+4.1%
営業利益	4,845	4,800	△0.9%
%	5.3%	5.0%	
経常利益	4,999	4,970	△0.6%
%	5.5%	5.2%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,503	3,217	△8.2%
%	3.8%	3.4%	
1株当たり当期純利益	221円62銭	215円59銭	

2026年3月期 セグメント別売上高予想



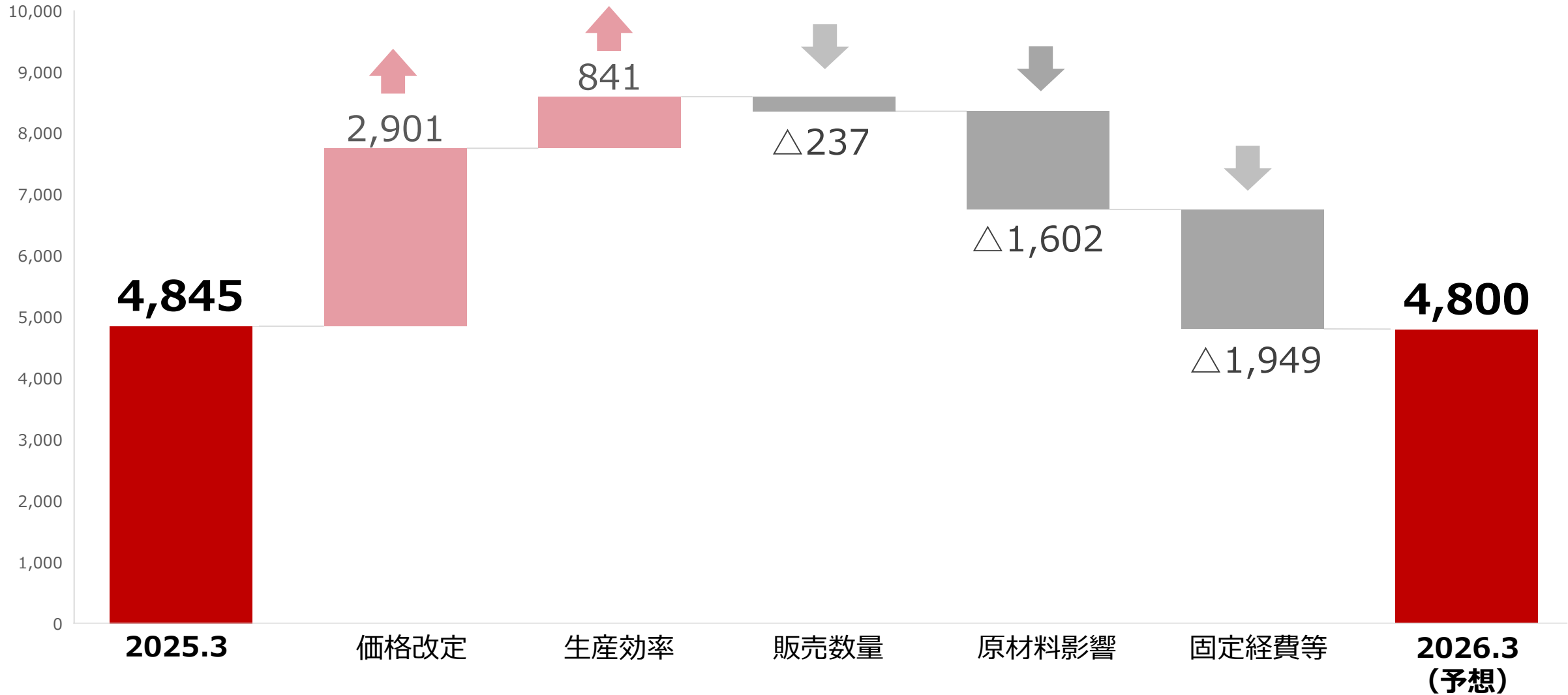
(単位：百万円)



セグメント	前年同期比	今期ポイント
■ 調味料・加工食品事業	+5.4%	● 各セグメントの数量増加 ● 価格改定効果
■ サラダ・総菜類	+8.2%	
■ マヨネーズ・ドレッシング類	+5.3%	
■ タマゴ加工品	+2.7%	
■ その他	+9.0%	
■ 総菜関連事業等	△0.4%	● 野菜等原材料価格の高騰
■ その他 (サラダカフェ)	△4.7%	● 1店舗退店 (2024年7月)

連結営業利益 増減要因 <見通し>

(単位：百万円)



前年同期比△45百万円

株主還元・配当予想



配当金
(通期)

期初予想

2024年5月13日公表
34円

業績予想修正

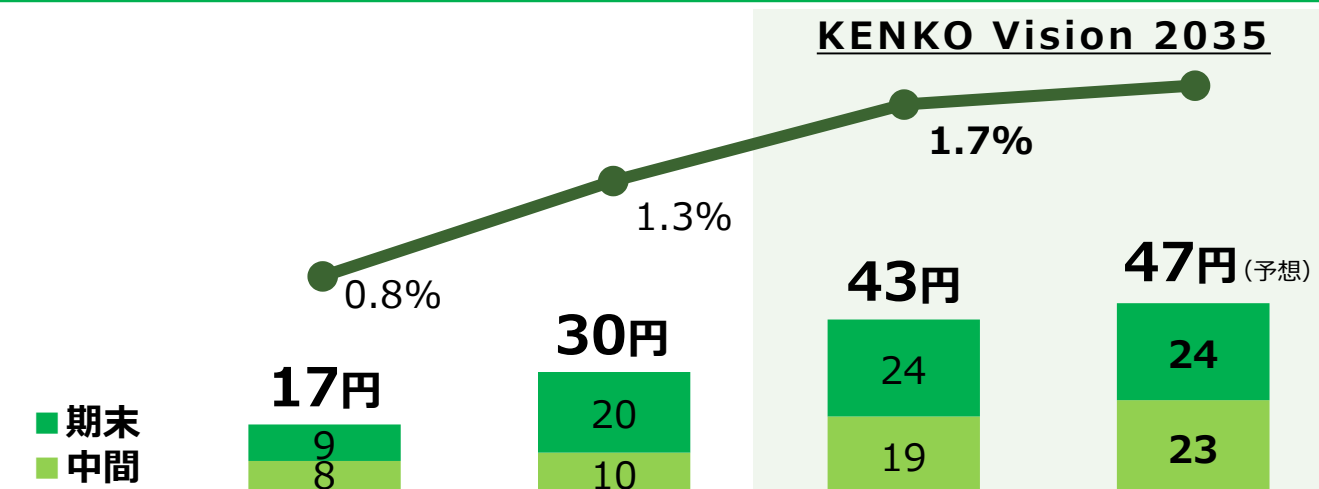
2024年8月5日公表
38円

期末確定

2025年5月12日公表
43円

2026年3月期
(予想)
47円

DOE
配当金



Phase1
(2024~2027年度)
DOE
1.5%以上(水準)

(円/株)	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期(予想)
配当金 (円/株)	17	30	43	47
配当性向 (%)	56.9	17.7	19.4	21.8
配当利回り (%)	1.41	1.49	2.31	—
株主資本配当率 (DOE) (%)	0.8	1.3	1.7	—

配当性向 = 1株あたり配当金 ÷ 1株あたり純利益 × 100

配当利回り = 1株あたりの配当金(合計) ÷ 各年3月末日時点株価(終値) × 100

株主資本配当率 (DOE) = 配当金総額 ÷ ((期首株主資本 + 期末株主資本) ÷ 2) × 100

3. 中長期経営計画 『KENKO Vision 2035』の進捗

『KENKO Vision 2035』の全体像



企業理念

(ミッション+パーパス)

守るべきもの ▶ 心身（こころ・からだ・いのち）と環境
使命 ▶ 食を通じて世の中に貢献する。

ビジョン（目指すべきもの）

『サラダ料理で世界一になる』

KENKO Vision 2035 基本戦略

成長戦略

-Growth Strategy-

スマート化

-Automation and Innovation-

KENKO Vision 2035
基本戦略

サステナビリティと 社会的責任

-Natural resource
sustainability, Social
responsibility-

人材投資

-Investment in
People-

経営基盤強化

マテリアリティの特定



成長戦略

-Growth Strategy-

- 既存事業の収益基盤強化、ブランド構築の実行
- 事業ポートフォリオを再構築し、事業環境の変化に適応

スマート化

-Automation and Innovation-

- DXを通じた企業改革と生産性の向上を図る
- 合理化、効率化、成長するための事業拠点の再編

人材投資

-Investment in People-

- グローバル企業化、働き方改革としてのダイバーシティを推進
- 人材育成の強化、キャリアプランが実現できる施策の検討

サステナビリティと社会的責任

-Natural resource sustainability,
Social responsibility-

- 環境問題への取組みと地域社会への貢献活動を推進
- グループ従業員の健康と働きがいに注力した健康経営を目指す

基本戦略 (1) 成長戦略 ① -Growth Strategy-



重要KPI

Phase1 (2027年度)

●NB商品比率の上昇

目標 NB商品比率 **50%**

●海外売上高比率の上昇

目標 海外売上高 **17億円**

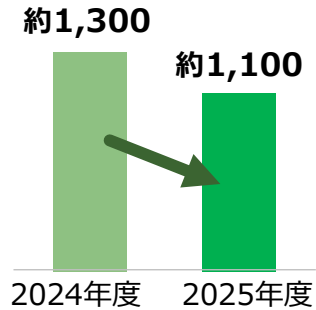
●EC事業の拡大

目標 EC売上高 **2億円**

商品統廃合

生産効率を高め、利益率の向上を目指す

商品数



約**200**商品

統合
配合変更
終売



工場の生産効率 ↑
業務効率 ↑
コスト ↓

効果額 **6億円**を計画
(2025年度)

2025年度

歩留向上等の
効果検証

さらなる集約生産を
検討中

EC事業

公式通販サイトを開設

- ・セット販売の強化
- ・EC限定商品の開発中



●SNSの活用

フォロワー数増加施策

キャンペーンの
実施

展示会での
リーフレット配布

Instagram ・ X

合計**15.5万**フォロワー

(ケンコーマヨネーズ/Salad Cafe合計)

前年同期比 +8.3%

2024年度
売上高

56百万円

前年同期比
+40%



基本戦略 (1) 成長戦略 ② -Growth Strategy-



海外戦略

● 輸出売上拡大

「日本の食品」輸出 EXPO」出展 (11月)

● 輸出商品数の増加



海外売上高 (輸出)

2024年度

12.5億円

前年同期比
+6.8%

● 海外拠点

インドネシア

拡張工事
の実施

・生産体制の強化
・品質向上

2025年度

- ・海外展示会への出展
- ・輸出商品数の増加・拡販
- ・海外進出先、進出方法の継続検討



ブランディングの強化

一般メディア・展示会を通じて企業ブランド力の向上を目指す

● 展示会への出展

企業ブランドの信頼度向上
サラダ料理の浸透

● 会社紹介動画作成

沿革、事業内容、
強みを表現



日経WOMAN
EXPO出展
(11月)



dancyu祭
出展
(2025年4月)



会社紹介
動画



8月18日 (月)
~24日 (日)
**2025年大阪・関西万博
出展**

大阪外食産業協会

ORA外食パビリオン「宴~UTAGE~」に出展

~サラダ料理で育む未来~

「和のサンドイッチのサラダ料理教室」を開催

和惣菜と手作りマヨネーズのサンドイッチのワークショップ



ORA外食パビリオン「宴~UTAGE~」

基本戦略 (2) スマート化 ① -Automation and Innovation-



重要KPI
Phase1 (2027年度)

労働生産性
目標 **10% UP**

**バック
オフィス**

労働生産性の向上
(既存業務の効率化
による新規業務への
シフト)

販売

**人時生産性
の向上**
(時間当たりの
売上高)

生産

**工場の
労働生産性向上**
(時間当たりの生産量)

DXの推進

バックオフィス

各部署の業務
の効率化

生成AIの導入

翻訳、Excel操作
文章校正
議事録作成
プログラミング作成期間の短縮 等

RPAの活用

定型業務を自動化する
環境づくり



販売

データ活用による
売上高・利益率の向上

基幹システム

入れ替えが完了

➡ 商品ごとの利益の見える化

営業支援ツール

導入完了

➡ 販売関連データの
有効活用



生産

時間当たりの生産性を向上

協働ロボットの導入

省スペースで稼働

➡ 単純作業
重量作業 } 改善



パレタイジングロボット (西神戸工場)

2025年度

水平展開の実施 ・西日本工場

人材教育手法の向上

習熟度の向上
時間短縮

動画マニュアルの導入

静岡富士山工場 / 西日本工場 / 山梨工場



事業拠点の再編

1

将来のプランニング

生産性の向上を
実現するために
拠点の再編内容や
時期等を検討中



3

次世代対応のための
工場整備

2工場の
作業環境の改善と
生産設備の更新
に着手

2

生産ラインの効率化対策

ソースの個包装ライン
効率化に着手

■ 工場整備実施概要

対象工場

- (1) 九州ダイエツクック
- (2) ダイエツクックサプライ

目的

建物

建物機能の回復
作業環境の改善

生産設備

設備更新による最適化

安定稼働

基本戦略 (3) 人材投資 ① -Investment in People-



重要KPI
Phase1 (2027年度)

エンゲージメント総合スコア
目標 **70pt** (2024年度 : 57.6pt)

自発的
貢献意欲

組織への愛着

会社ビジョン
への共感

従業員意識調査

従業員エンゲージメントの向上に向けた意識調査の実施

2024年度

従業員
意識調査

回答率 : 94.7%

調査結果

現状を認識

分析

各部署の課題項目、
伸ばしたい強みの
抽出



アクションプラン
策定

会社のビジョンを意識した
目指す姿の設定

アクションプラン
実行

目指す姿

会社や仕事が「好き」、
「楽しい」と感じられ、
当社で働くことに
誇り・希望を持てる

2025年度

従業員意識調査



基本戦略 (3) 人材投資 ② -Investment in People-



働きやすい職場の実現

自己実現や成長を実感できる制度の導入

新人事制度スタート



1on1
ミーティング
の実施

等級制度

評価制度

報酬制度



2025年度

働きやすさ・制度の充実化

研修の充実

キャリアプランを実現する研修を導入

人材育成
スキルアップ
社会課題の解決

専門人材の育成
キャリアアップ
動画研修

等

2024年度実績

26テーマ

インナーブランディング

当社の理念やビジョン・活動等
共有や共感、浸透から、より強固な組織に向けた変革

●商品勉強会の実施

自社商品の社会貢献を
実食を通じて学ぶ



企業理念

「食を通じて世の中に貢献する。」
を実感、浸透

●社内報の発行



社内コミュニケーション
の活性化

モチベーションの向上

基本戦略（4）サステナビリティと社会的責任 ①

-Natural resource sustainability,
Social responsibility-



重要KPI

Phase1（2027年度）

●CO₂排出量の削減

目標 ▲25.4%
2019年度比 原単位

●環境に配慮したサステナブル素材の使用

目標 使用率 56.0%

●廃棄物削減

目標 ▲14.1%
2019年度比 原単位

エネルギーの有効活用

課題把握・解決策を検討・実行

エネルギーの可視化

エネルギー診断実施のために全工場に測定機器を設置中

設置完了

西日本工場
西神戸工場

2025年度～

設置数の増加計画
静岡富士山工場／山梨工場

エネルギーの有効活用

バントコンデンサーの導入

御殿場工場

西日本工場

CO₂削減
73.6t/年間

3月に設置完了
稼働検証中

省エネ取組み

・ボイラー・スチームの圧力見直し
・冷凍・冷蔵庫省エネ化

など

CO₂

CO₂排出量の削減

2024年度
▲10.5%
2019年度比 原単位

サステナブル素材

・マテリアルリサイクル

再生トレイの使用
(量販店向け惣菜パック)



ダイエットクックサブライで使用している再生トレイ

・バイオ原料

植物由来プラスチックを
量販店向け惣菜のパッケージで
使用中

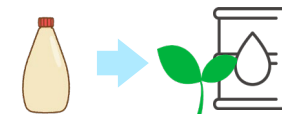
サステナブル素材の使用率

2024年度 45.5%
※2025年1月時点

廃棄物削減

サーキュラーエコノミーの実現
に向けた対応の検討

・廃棄マヨネーズを分離・精製して
バイオディーゼルとして活用
・廃棄物の堆肥化



廃棄物削減

2024年度
▲12.3%
2019年度比 原単位

健康経営

関東ダイエットエッグ

健康経営優良法人
中小規模法人部門で認証



2024年度～

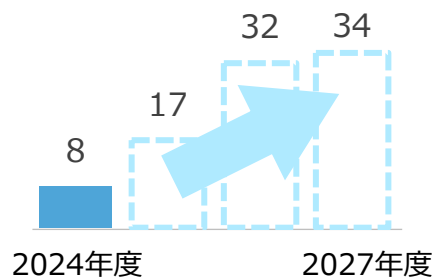
2027年度 ケンコーマヨネーズ本体で
「健康経営優良法人」（大規模法人部門）
の認証を目指し、取り組みを実行

CDPスコア

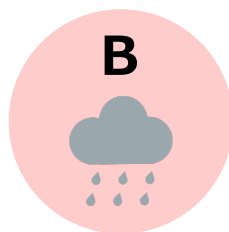
気候変動に対する活動の強化

課題を34件抽出(2024年度)

<着手予定数の推移>

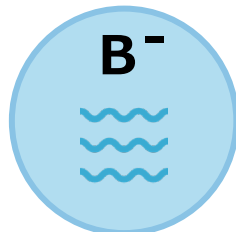


気候変動

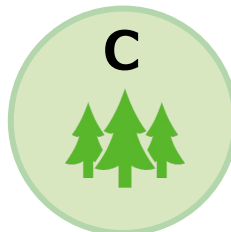


2024年度結果

水セキュリティ



フォレスト



地域社会への貢献

●イベントへの参加（食育）

マヨネーズ作り体験会



杉並区コミュニティ ふらっと方南
(12月)



浜田山小学校
(2月)



ファーマーズ&キッズ
フェスタ2025 (3月)

●森林保全活動

森林再生

パートナー制度締結

森の一部をメンテナンス
(神奈川県)



九州ダイエットクックの
取組み (2023年～)

2025年度～ 森林保全活動 全国展開へ

KENKO Vision 2035

持続的な成長のために **抜本的改革と企業価値の更なる向上**を目指す

成長戦略

スマート化

人材投資

サステナビリティと
社会的責任

Phase1 2024-2027
＜事業構造の改革＞

Phase2 2028-2031
＜再成長＞

Phase3 2032-2035
＜進化・発展＞

2027年度 目標

2035年度 目標

財務指標

連結売上高 1,020億円以上

連結営業利益 33億円以上

株主還元

DOE (株主資本配当率) 1.5%以上 (水準)

財務指標

連結売上高 1,250億円以上

連結営業利益 75億円以上

連結営業利益率 6%以上

ROE 8%以上

海外売上高比率 10%以上

株主還元

DOE (株主資本配当率) 2.5%以上 (水準)

『KENKO Vision 2035』 年度別損益計画

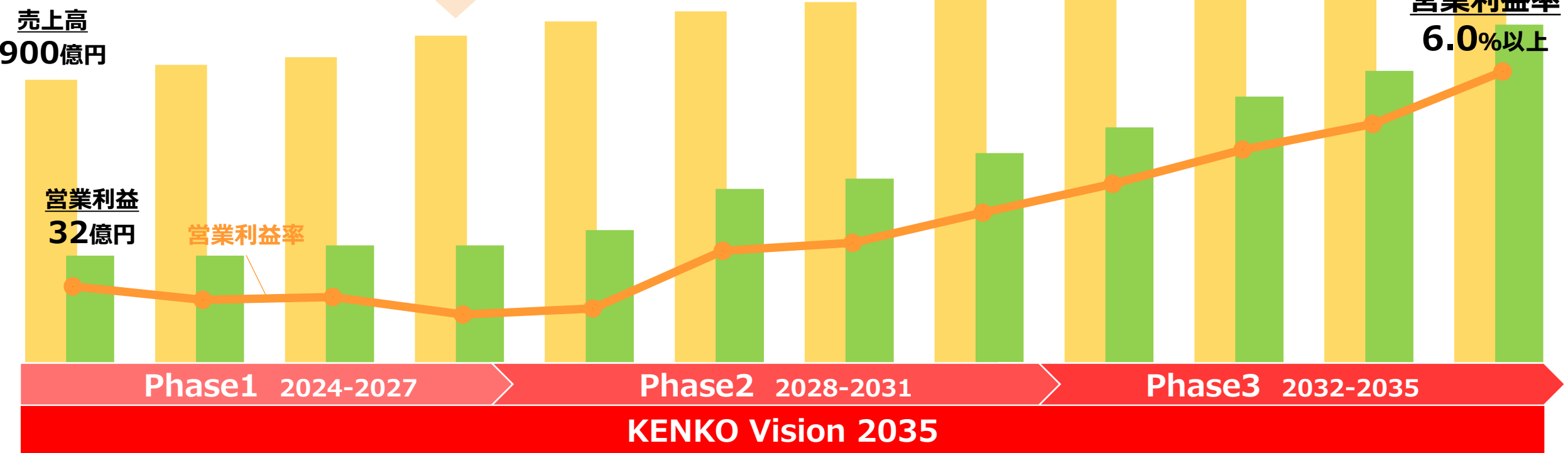


▼2024年5月公表時計画

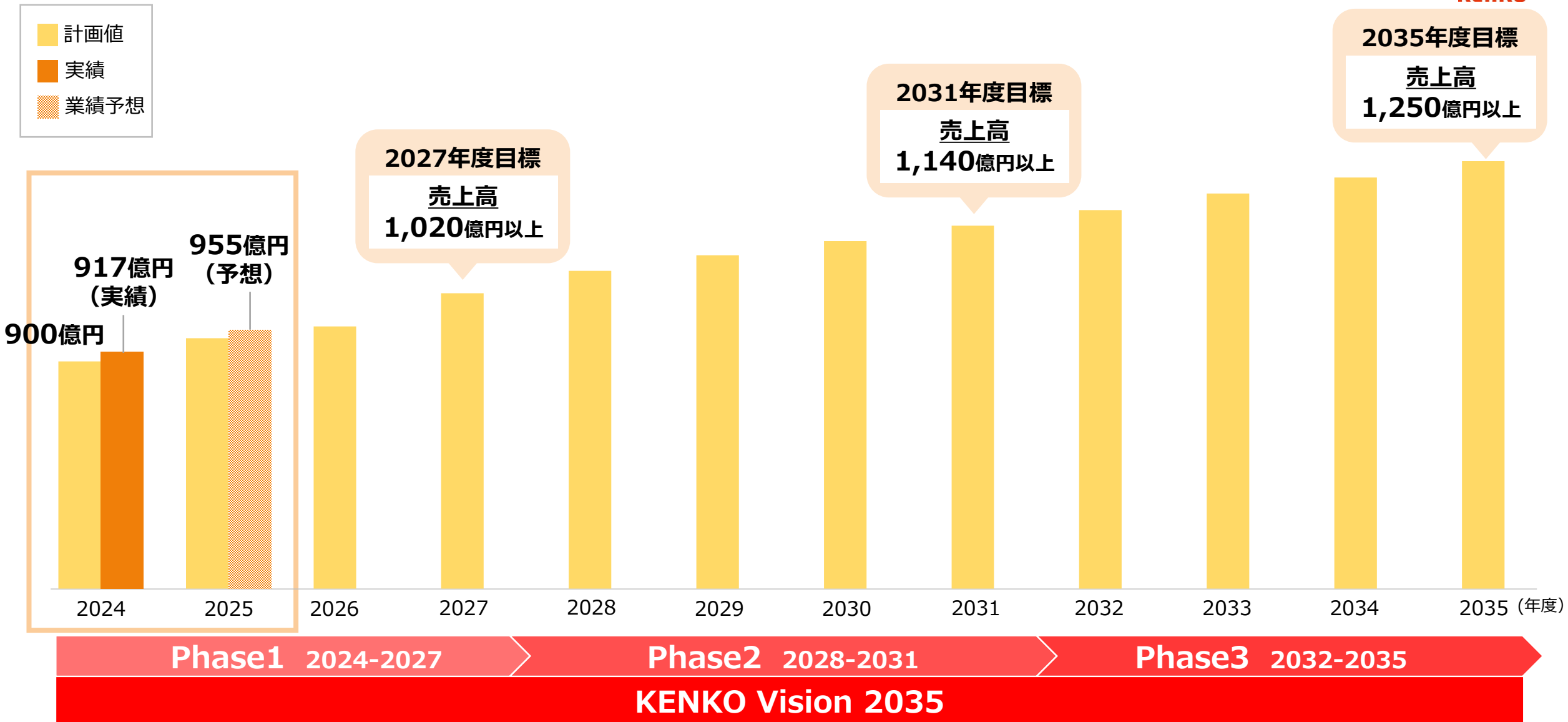
2027年度目標
売上高 1,020億円以上 営業利益 33億円以上

2031年度目標
売上高 1,140億円以上 営業利益 50億円以上

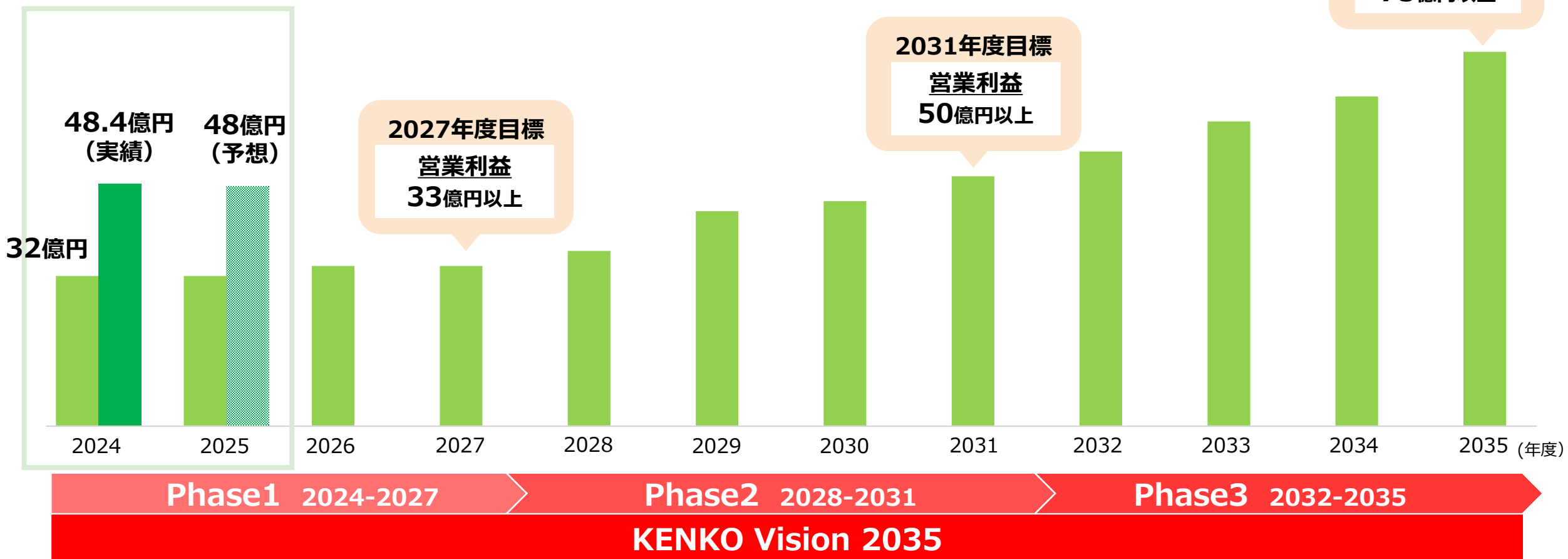
2035年度目標
売上高 1,250億円以上 営業利益 75億円以上



『KENKO Vision 2035』 年度別 売上高計画の進捗



『KENKO Vision 2035』 年度別 営業利益計画の進捗



キャッシュアロケーション



Phase1:2024~2027年度

キャッシュイン

キャッシュアウト

(単位：億円)

Phase1	戦略	目的	Phase1計画	2024年度実績	2025年度計画
営業CF※ 242億円	成長戦略 109億円	海外進出 (M&A含む)	38	0	2
		新規事業への投資	—	—	0
		システムへの投資	11	0	1
		事業拠点の強化	60	—	—
計			109	0	3
政策保有 株式売却 2億円	スマート化 86億円	事業拠点の再編・強化	48	1	9
		DXの推進等	38	8	3
		計	86	9	12
手元資金 45億円	人材投資 43億円	教育・人材育成施策	16	2	3
		エンゲージメント向上施策	27	0	11
		計	43	2	15
資金調達 101億円	サステナビリティと 社会的責任 51億円	株主還元	23	6	6
		資本政策	14	19	8
		ESGへの投資	14	0	2
計			51	27	17
合計			290	40	49

※営業利益見込+減価償却費

4. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

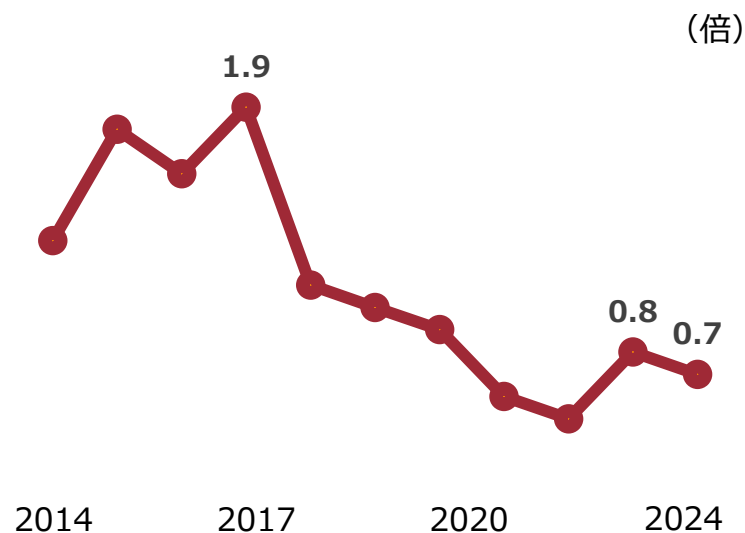
外部環境の変化による影響の中、強固な財務基盤を維持し収益性を向上

今後の課題

収益性、資本収益性の向上

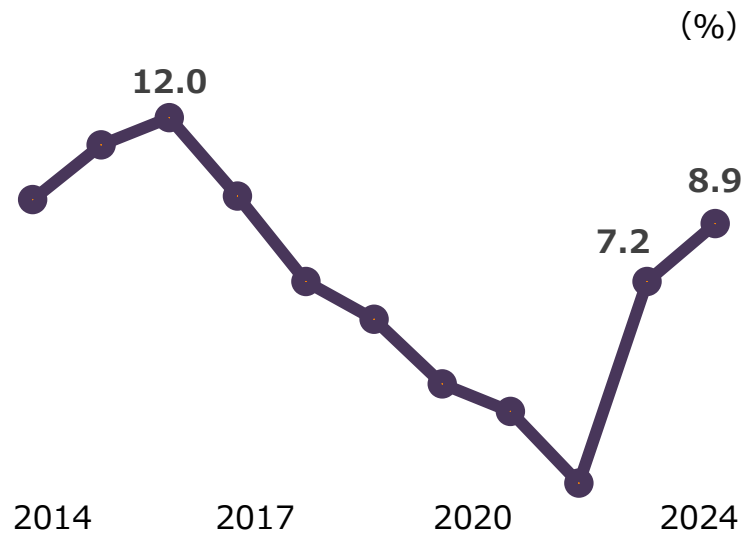
PBR

利益水準の向上・自己資本の圧縮と直近株価下落によりPBR 0.7倍



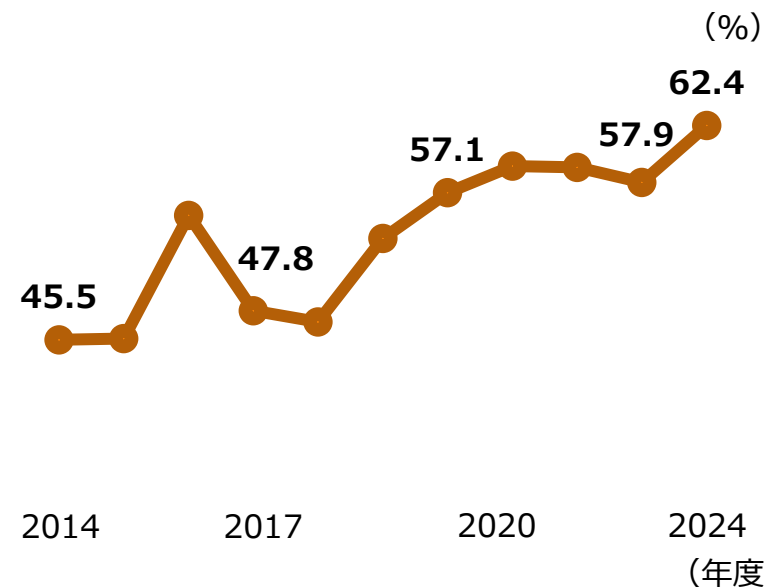
ROE

前年度の価格改定効果と自己株式取得により8.9%



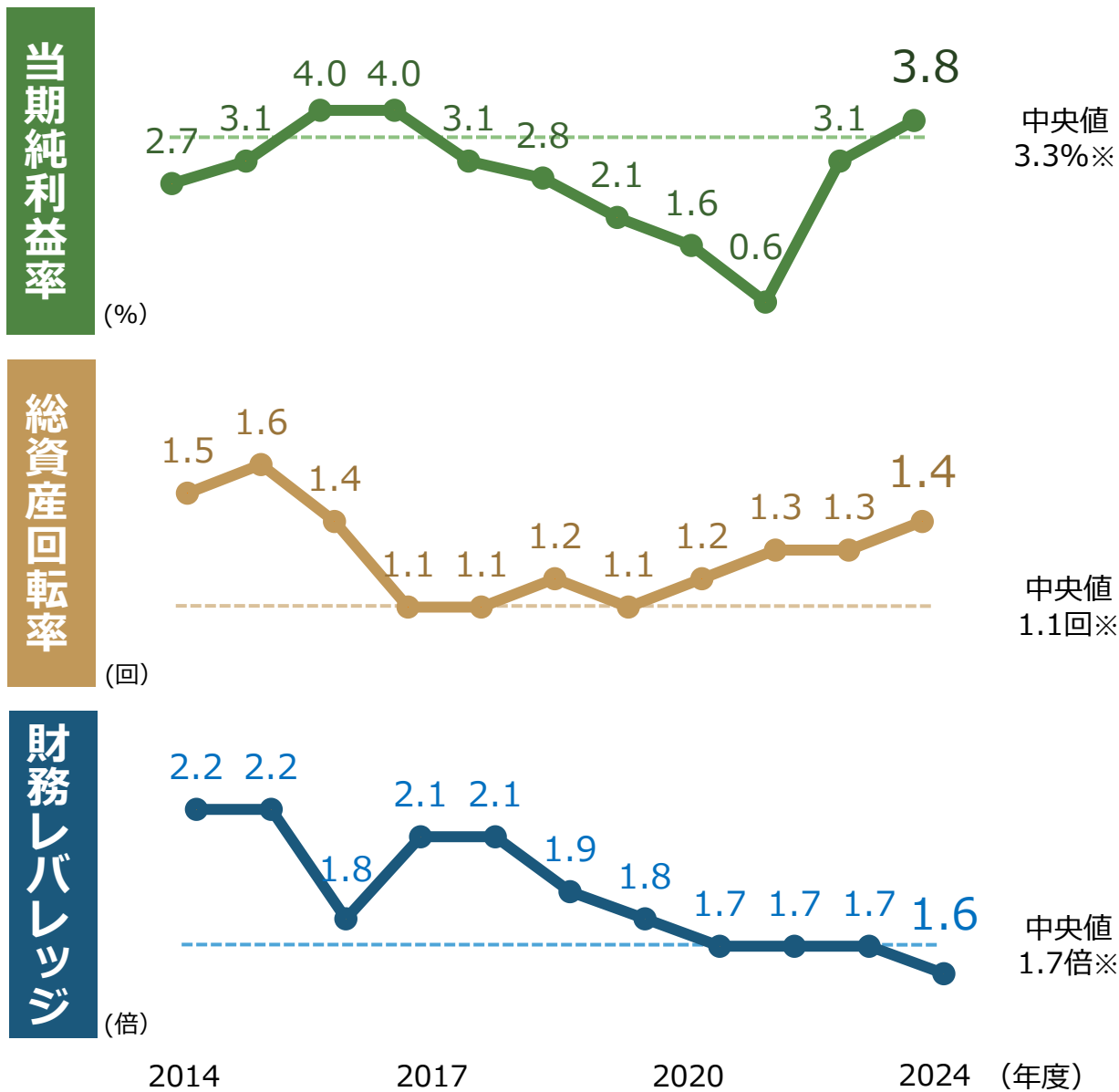
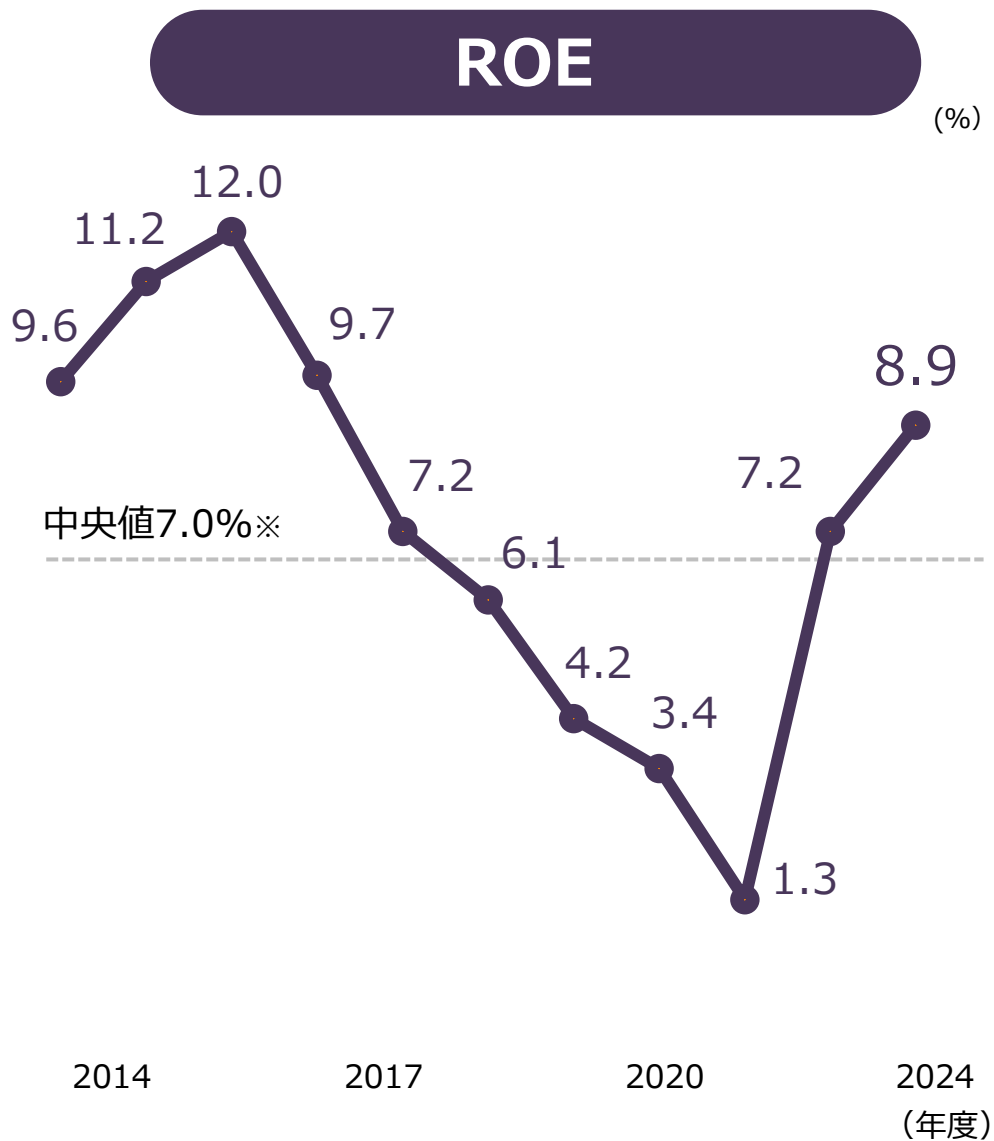
自己資本比率

負債減少による財務基盤の安定



※株価は3月末時点終値

現状分析 ROEの分解



※2024年度食料品の中央値：財務分析マニュアルより抽出

【取組み①】連結営業利益率 6%以上に向けた施策

営業利益率向上のための施策実行

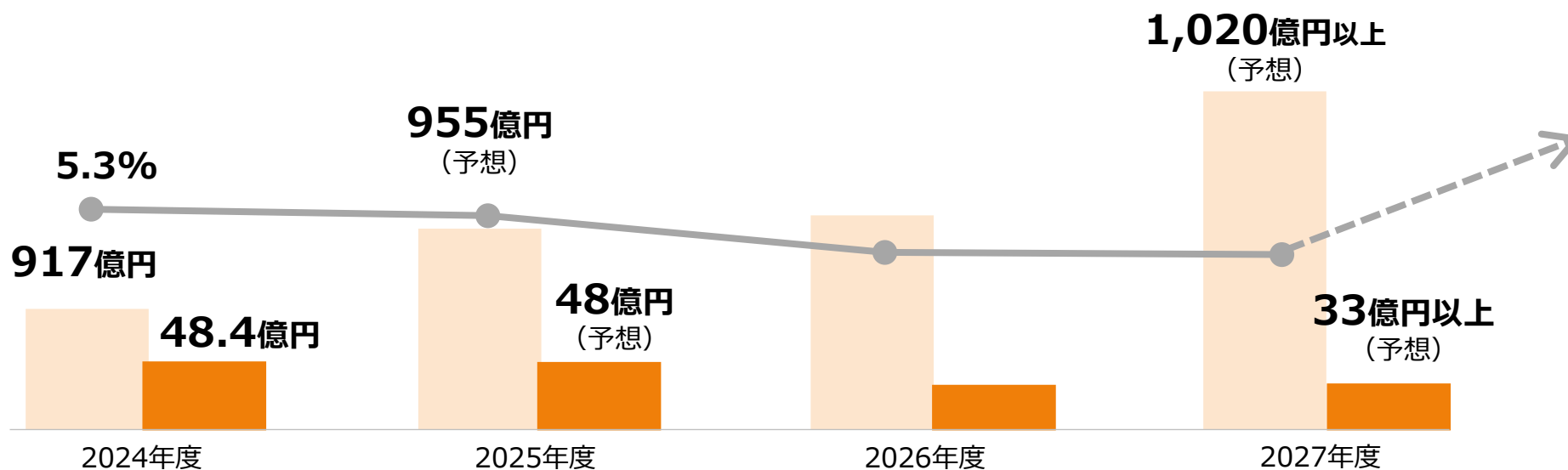
2024年度実績

- 商品統廃合による効率化の推進 ▶ 約200品の統廃合を実施
- DX推進による労働生産性向上 ▶ 生成AI活用や協働ロボットの導入
- 海外売上高の上昇 ▶ 海外売上高12.5億円
(前年同期比+6.8%)

連結営業利益率

5.3%

(前年同期比+2ポイント)



Phase1 2024-2027 <<事業構造の改革>>

※億円未満切り捨て

【取組み②】ROE 8%以上に向けた施策

企業価値向上のための自己資本最適化と利益確保

2024年度実績

- 営業利益率5.3%（前年度実績3.3%から上昇）
- 自己株式19.6億円の取得
- 政策保有株式の縮減（一部保有銘柄の売却）

ROE 8.9%

（2024年度実績）



Phase1 2024-2027 <<事業構造の改革>>

$$ROE = \frac{\text{当期純利益のUP}}{\text{自己資本の最適化}}$$

- ・商品統廃合による利益改善
- ・労働生産性 10%UP
- ・政策保有株式の縮減
- ・自己株式の取得と活用

新たな投資計画

事業拠点の再編
海外展開etc.

【取組み③】株主還元強化

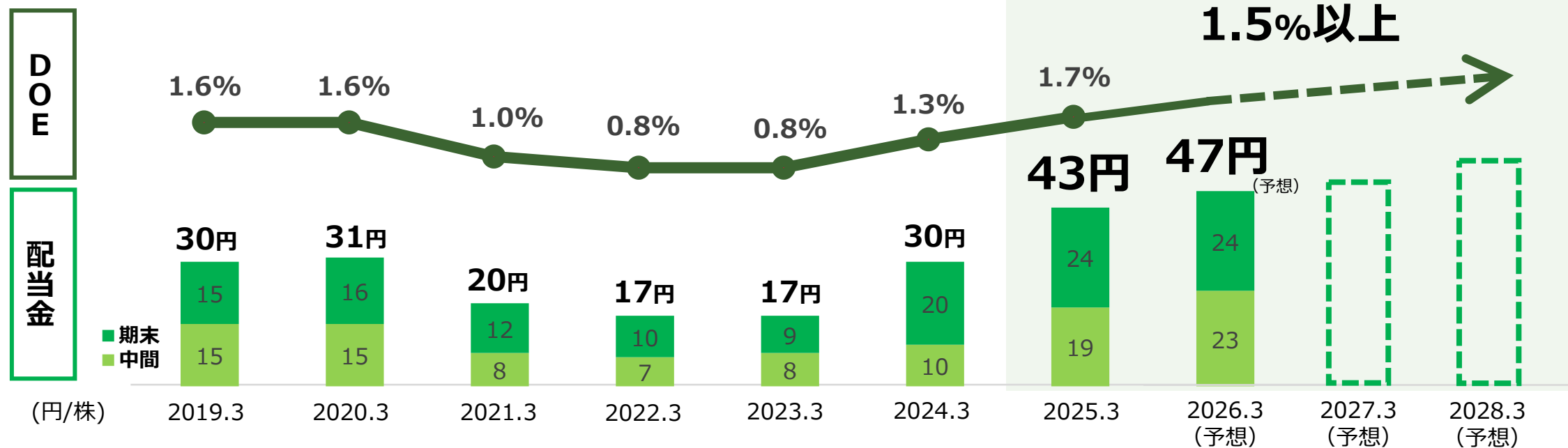
安定した株主還元

2024年度実績

- 配当金：期初34円 → 期末43円（通期では9円増配）
- 自己株式19.6億円の取得

DOE 1.7%

(2024年度実績)



株主資本配当率 (DOE) = 配当金総額 / ((期首株主資本 + 期末株主資本) ÷ 2) × 100

Phase1 2024-2027 <<事業構造の改革>>

【取組み④】IR活動の強化 – 投資家との対話の実施状況

▼IR活動の強化を通してPBR改善を図る

市場との対話強化

2024年度実績

- 機関投資家向け決算説明会：2回実施
- IR面談の実施※：68件（前年同期比2倍）
- 個人投資家向け会社説明会：3回参加
- ケンコーマヨネーズグループ総合フェアに
株主様招待と会社説明会の開催

※決算説明会は含まず

IR活動の基盤整備

- 統合報告書（日英）の発行
- IRサイト：再構築の準備
- IR体制の強化



主な対応者

決算説明会 (ハイブリット開催)

代表取締役会長、代表取締役社長
執行役員 経営企画室 室長
経営企画室 経営管理部 部長
管理本部 財務経理部 部長

IR面談

執行役員 経営企画室 室長
経営企画室 経営管理部 部長

個人投資家向け会社説明会

代表取締役社長

株主総会

全取締役及び監査役

株主様招待 (ケンコーマヨネーズグループ総合フェア)

取締役副社長
執行役員 経営企画室 室長
経営企画室 経営管理部 部長

対話の主なテーマ

- ・中長期経営計画の
今後の詳細な取組み
- ・投資計画（事業拠点再編等）
- ・鳥インフルエンザ対策
- ・PBR 1 倍割れ
- ・株主還元

対応状況

- ・中長期経営計画の各戦略につき説明
- ・キャッシュフローの開示
- ・投資計画を含む取組みを再策定中
- ・リスク分散、海外からの輸入も実施
- ・2024年5月にPBR改善策を開示・説明
- ・株主還元（DOE）政策について説明

東京本社の移転

2026年2月
東京本社移転（予定）



※現 東京本社

移転先

東京都千代田区麹町
五丁目1番4
（麹町弘済ビルディング）

ご清聴いただき
ありがとうございました。



- I R お問い合わせ

- 東京本社 : 東京都杉並区高井戸東3-8-13
- 担当者 : 経営企画室 経営管理部 IR課
- 電話 : 03-5941-7682
- E-mail : ir@kenkomayo.co.jp

- 将来見通しに関する注意事項

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述は、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、皆様ご自身の判断と責任においてご利用されることを前提に提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。